

開館10周年を迎えて

家村克行

当館が本年6月1日をもって開館10周年を無事迎えましたことは、一重に町民各位並びに関係機関のご指導の賜ものと深く感謝申し上げます。

本館は1968年、北海道100年と本町開基70年の記念すべき年に建築され、翌年6月1日オープンしたものであります。

それまで各氏家や物置き等に眼っていた民具や農器具等を収集し、あるいは自然界の昆虫類・獣類・鳥類・化石・土壤等の標本を採集し、展示開館したのでありますが、その後町教育委員会が行なった平和遺跡・十勝太遺跡群・共栄B遺跡などの発掘出土品が受入れられるに及んで、展示も一層充実するとともに所蔵資料も飛躍的に増大いたしました。

又、教育普及活動の一環として『浦幌町郷土博物館報告』を1972年から発刊を開始し、本号で第16号を数えるに至り、昨年9月には博物館法第10条に基づく博物館として登録され、名実ともに博物館としての体裁を整えるようになったのであります。施設が狭隘のため最近では新たな寄贈資料さえ受入れることが困難になって来ているのが

現状であります。このことは、単に博物館資料の受入れ業務の停滞化を招くばかりではなく、博物館としての基本的な業務である資料の収集・展示・保管・研究・教育普及の総体的な処理にも影響を及ぼし、館運営に当る者の一人として憂慮していたところであります。幸いこのたび浦幌町社会教育中期計画策定委員会から博物館の建設についての答申がなされました。

博物館活動は、施設及び職員並びに資料が充実されてこそ本当の意味での博物館として地域に根ざすものであると確信するものであります。

今後、社会教育中期計画に基づく博物館の建設をはじめ、設備の充実に一層意を注がなければなりませんが、これまで博物館に貴重な資料を寄贈・寄託されました数多くの方々並びに館創設当時から開館準備・運営にご尽力下さいました関係各位に本欄を借りて厚くお礼申し上げたいと思います。

最後に、これからも益々博物館の管理、運営にご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。

(浦幌町郷土博物館長)

80年代での浦幌町郷土博物館の振興

大井康行

人々の自発的な学習・相互学習の場を提供するとともに、各種の学習活動を促進するための事業を行うことは、社会教育活動の一つであり、その活動の拠点となる施設は社会教育施設と呼ばれている。社会教育施設としては公民館・図書館・博物館・婦人会館・青年の家・少年自然の家・総合体育館等があり、人々の教育文化活動の拠点となり継続的・計画的な教育活動を展開し、連帯感を醸成する場としての機能が必要であると思われる。

社会教育施設の中での博物館としての特色は、人文科学及び自然科学の分野に関する実物資料を

通じた学習の場であり、展示を中心とした教育活動を開催する場であり、また地域の歴史や文化を継承しその発展を支える場であるとともに、人々がふるさとを共に感じとる場であると言えよう。

浦幌町郷土博物館は1968年、開基70年記念事業の一環として建設されたが、開館に至るまでは教育委員会はもとより浦幌高等学校郷土研究クラブの顧問の先生や生徒、住民の多くの人々の知恵と労力奉仕そして努力により埋蔵文化財、動・植物、鉱物、開拓時代の生活様式を現わす物、先祖より伝わる家宝、その他教育、産業に関する器具・器